

研究発表もうしこみフォーム

氏名： リンチン（仁 欽）

氏名のローマ字表記： RENQIN

所属：内モンゴル大学モンゴル学研究センター

専門分野：内モンゴル現代史

発表のタイトル：「改革開放」初期の内モンゴルの牧畜業地域社会の実態

発表要旨（600字～800字程度）：

中国においては、中国共産党 11 期 3 中全会（1978 年）後の「改革開放」政策のもとで、1950 年代に推進された社会主義的集団化は相次いで大転換を迫られた。内モンゴルの牧畜業地域においては、1981 年に「全面請負制」（「大包幹」）、1984 年に「家畜と放牧地の請負制」（「草畜双承包」制度）、1997 年に「放牧地の所有権と使用权、請負制」（「双権一制」）などの一連の「改革開放」の請負制が推進された。これらの請負制が実施されたことにより、20 年余りも続けられた牧畜業人民公社が解体され、人民公社がソム（一般漢人地域の郷に相当する行政単位）、生産大隊がガチャー（一般漢人地域の生産大隊に相当する行政単位）と改称された。

本稿では、主に従来 of 研究者によって使用されたことのない、内蒙古自治区革命委員会弁公庁「關於認真總結、落實牧区“兩定一獎”制度的通知」（1979 年 6 月 26 日）内蒙古自治区檔案館所蔵、烏蘭毛都公社管委會「關於畜群大包幹責任制暫定弁法」（1982 年 9 月 30 日）科右前旗檔案館 69-1-9、旗・社兩級調查組「烏蘭毛都公社牧業生產責任制的調查報告」（1982 年 9 月 11 日）科右前旗檔案館 67-1-134 などの文書史料と調査資料集『内蒙古自治区農村牧区社会經濟典型調查材料彙編〈内部材料〉』（1985 年）などを駆使し、内モンゴルの牧畜業における諸々の請負制に焦点をあてて、ソム、ガチャー、バグ（自然村）を実例として、「改革開放」後の内モンゴルの牧畜業地域社会の実態を検討する。

結論として、一般牧民の牧畜業生産に対する積極性が高まり、牧畜業生産は発展し、牧民大衆の生活水準も向上する一方で、指標値が高過ぎたことによる目標の未達成、放牧地の開墾や破壊、平均主義、管理の混乱、家畜の増加と放牧地退化の矛盾及び学校教育の遅れなどの様々な問題が生じたことをのべる。